様　式　Ｃ－１９、Ｆ－１９－１、Ｚ－１９　（共通）

科学研究費助成事業　　研究成果報告書

令和　２ 年　 ５ 月 ３０ 日現在

機関番号：３０１０５
研究種目：基盤研究(C)（一般）
研究期間：2015～2019
課題番号：１５Ｋ０２６４６

研究課題名（和文）アカデミックライティングにおける適切なリソース活用のための教材開発

研究課題名（英文）The development of learning materials for appropriate resource use in academic writing

研究代表者
副田　恵理子（SOEDA, Eriko）

藤女子大学・文学部・准教授

研究者番号：９０４３３４１６

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費）　　3,300,000円

研究成果の概要（和文）：本研究では、日本語学習者が日本語で論文・レポートを作成する際に、インターネット上の様々なサイトや書籍等のリソースを適切に活用するためのスキルを調査した。日本語学習者が大学生活場面で書いた文章を集めたプロダクト調査、文章を作成する過程を観察したプロセス調査、リソース使用に関する知識や学習経験について尋ねたアンケート調査の３つを実施した。その結果を踏まえ、より具体的な場面を設定した上で、それぞれの場面で必要となるスキルを順を追って身につけられる教材の検討・試作を行った。

研究成果の学術的意義や社会的意義
アカデミックライティングにおけるリソース使用については様々な問題が見られ、特に母語以外で書く際にはその要因は複雑である。これらの問題には適切な情報を選択するためのリテラシー教育に関する部分と，情報をどのように日本語の文章内に取り込むのかという言語教育に関する部分があり、研究においても教育場面でも別々に扱われることが多い。しかし、適切なリソース使用について明らかにするためには、そのプロセス全体を研究対象として統合的に観察分析し、問題点を追求した上で全体として指導していく必要があると考えた。

研究成果の概要（英文）：This study was conducted to identify the skills needed for Japanese language learners to appropriately use resources such as various websites and books in academic writing.
Three kinds of research were conducted with overseas students: research on writing products in their academic situation, research on the writing processes of their report assignment, and a questionnaire survey to clarify their knowledge of resource use in academic writing and their learning experience.
Based on the results, the learning materials for appropriate resource use in academic writing have been developed.

研究分野：日本語教育

キーワード：日本語学習者　留学生　アカデミックライティング　リソース　引用

※科研費による研究は、研究者の自覚と責任において実施するものです。そのため、研究の実施や研究成果の公表等については、国の要請等に基づくものではなく、その研究成果に関する見解や責任は、研究者個人に帰属されます。

１．研究開始当初の背景

近年情報メディアの発達に伴い、母語以外で文章を作成する際には携帯電話の辞書アプリやweb上の辞書サイト・翻訳サイト・検索サイトなど様々なリソースが使用されている。論文やレポートなどのアカデミックライティングにおいても書籍に加えて様々なリソースが用いられているが、適切に使用されていないケースが多い。その問題はリソースを使用する場面とリソースから得た情報を文章内に取り込む場面の双方で見られる。例えば、副田・平塚(2014)ではリソースを使用する場面においてインターネット上の「検索サイト」を効果的に活用できない例が見られた。リソースから得た情報を文章内に取り込む場面では、吉村(2013)でも指摘されている「表現の盗用」や「パッチワーク文」の問題があげられる。これはリソースから得た表現・文・文章を言い換えが不十分なまま論文やレポートの中に取り込んでしまうものである。

以上のような問題があるにも関わらず、従来のアカデミックライティングの指導においては、リソースを適切に効果的に活用するためのスキルが積極的に取り上げられることはなかった。そこで、本研究では日本語学習者がリソースを適切に活用するためのスキル、リソースから得た情報を文章内に適切に取り込むためのスキルを明らかにし、それらのスキルの習得を目指す教材の開発を行う。

２．研究の目的

(1)日本語学習者が論文やレポートを作成する際、情報を得るためにインターネット上の様々なサイトや書籍等のリソースをどのように使用しているのか、また、そこから得た情報をどのように使用しているのか、その実態を調査する。

(2)リソース、また、リソースから得た情報を適切に活用するためには、どのようなスキルが必要であるのかを明らかにする。

(3)上記調査結果を踏まえ、適切なリソース活用に必要なスキルの習得を目指す教材を開発する。

３．研究の方法

(1) 実態調査

① プロダクト調査：留学生が大学生活場面で書いた文章を幅広く集め、文章内でリソースから得た情報がどのように使われ、何が問題となっているのかを分析した。

② プロセス調査：留学生が授業で課せられたレポートを作成する過程を動画キャプチャーやビデオカメラにより録画し、リソースをどのように使用しているのか、リソースから得た情報をどのように文章内に取り込んでいるのかを観察した。

③ アンケート調査：①②の調査結果から、アカデミックライティングにおいては様々なリソースの中でインターネットが最も頻繁に使用されていること、また、言語形式面よりも内容面の情報収集のためにインターネットが使われる場面で問題が多いことが明らかとなった。そこで、内容面の情報収集のためのインターネットの使用方法とインターネット使用や引用に関する知識、学習経験についてだずねるアンケート調査を実施した。

(2) 教材作成

(1)の調査結果を踏まえてリソース使用に必要なスキルの抽出を行い、そのスキルを身に付けるための教材の開発を試みた。

４．研究成果

(1) 実態調査の結果

① プロダクト調査からは、文系、理系それぞれの論文・レポートの種類によってリソースから得た情報の使われ方に違いがあることが明らかとなった。学習者自身の経験をもとにした説明型レポート、調査報告型レポートには問題が少ないが、それ以外の種類の論文・レポートに様々な問題が見られた。

② レポート作成過程を分析したプロセス調査からは、レポート課題の種類によって各リソースにかける時間やリソース使用方法には大きな違いがあることが明らかとなった。文系レポート作成過程においては、内容面の情報収集のためにインターネットを使用する際に問題が見られ、適切な日本語キーワードを使って段階に応じた情報探索ができていない、目的に応じて参照するサイトの取捨選択ができていない、web サイトから得た情報をレポート内に取り込む際に適切な引用が行われていない等の問題が見られた。

理系学生を対象とした調査では、実験レポートの作成過程に様々な問題が見られた。実験レポートの作成過程ではインターネットの使用は限られており、テキストや書籍の言葉を活用して実験ノートに自ら記した数値を文章の形でまとめて説明していくというプロセスが明らかとなった。しかし、テキストや書籍の言葉が適切に使用されないことも多く、最終的に作成されたレポートは言語形式面で問題が多かった。

③ ①②の調査結果をふまえ、文系学生を対象とした調査で最も問題の多かった内容面の情報収集のためのインターネット使用についてアンケート調査を実施した。その結果、情報の正確さや信頼性に不安を感じつつWikipediaなどの簡便なwebサイトを使用している点、適切なリソース使用や盗用に関する意識が徹底していない点、直接引用と間接引用の使い分けが不十分である点が明らかとなった。また、半数近くが日本語力の不足などから引用部分の内容理解や情報の適切な引用に困難を感じていることも明らかとなった。

(2) 教材作成

これらの調査結果をもとに、適切なリソース使用を身につけるための web 教材の作成を行った。適切なリソース選択やリソース使用、そのリソースから得た情報の文章内への取り込み方は課題の種類や内容によって大きく異なり、またレポート作成のどの段階で行われるのかによっても違いあることが明らかになった。そこで、より具体的な場面を設定した上で、それぞれの場面で必要となるスキルを順を追って身につけられるよう、情報の提示の仕方や練習方法などを検討した。

(3) 今後の展望

本研究から留学生のアカデミックライティングにおけるリソース使用場面での問題は、情報リテラシーの問題と日本語力の問題が相互に影響し合って起きていることがわかった。日本語のアカデミックライティングの指導の中で情報リテラシーが積極的に扱われることは少ない、もしくは、情報リテラシーは別に指導されることが多い。しかし、これらは書くプロセス全体を見て、統合的に指導されるべきだと思われる。今後も課題の種類や書くプロセスの段階に合わせた効果的なリソース使用のあり方を明らかにするために、調査対象者を広げ調査分析を進めていきたい。

＜引用文献＞

副田恵理子・平塚真理(2014)「上級日本語学習者のレポート作成過程の分析−韓国人留学生を対象に−」『日本語教育学会第 4 回研究集会』

吉村富美子(2013)『英文ライティングと引用の作法:盗用と言われないための英文指導』 研究社

５．主な発表論文等

〔雑誌論文〕　計6件（うち査読付論文　0件／うち国際共著　0件／うちオープンアクセス　6件）

１．著者名 副田恵理子、平塚真理	４．巻 53
２．論文標題 韓国人上級日本語学習者のレポート産出過程の分析	５．発行年 2016年
３．雑誌名 藤女子大学文学部紀要	６．最初と最後の頁 43～56
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 －

１．著者名 小林ミナ	４．巻 第27号
２．論文標題 緒言:特集「「状況」から出発する日本語教育」	５．発行年 2019年
３．雑誌名 早稲田日本語教育学	６．最初と最後の頁 i-vii
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 －

１．著者名 日野純子	４．巻 第27号
２．論文標題 「打つ・書く言語行動」の実態調査―予備調査から見えた国内外の日本語母語語話者・日本語学習者の特徴―	５．発行年 2019年
３．雑誌名 早稲田日本語教育学	６．最初と最後の頁 1-5
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 －

１．著者名 副田恵理子	４．巻 第27号
２．論文標題 日本語学習者が書く・打つ状況で必要となるスキルとは―具体的な状況を踏まえた多角的な調査から―	５．発行年 2019年
３．雑誌名 早稲田日本語教育学	６．最初と最後の頁 7-11
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 －

1．著者名 大和えり子	4．巻 第27号
2．論文標題 「状況から出発する」アプローチの実現―初級日本語学習者用ライティング教材の作成過程から―	5．発行年 2019年
3．雑誌名 早稲田日本語教育学	6．最初と最後の頁 13-18
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 －

1．著者名 副田恵理子	4．巻 第57号
2．論文標題 アカデミックライティングにおける留学生のインターネット使用―韓国人・台湾人留学生のレポート作成過程の分析から―	5．発行年 2020年
3．雑誌名 藤女子大学文学部紀要	6．最初と最後の頁 135-153
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 －

〔学会発表〕　計3件（うち招待講演　0件／うち国際学会　0件）

1．発表者名 副田恵理子、日野純子、舩橋瑞貴
2．発表標題 アカデミックライティングにおけるインターネット使用 ―アジア圏留学生を対象としたアンケート調査から―
3．学会等名 2019年度日本語教育学会春季大会
4．発表年 2019年

1．発表者名 副田恵理子
2．発表標題 レポート作成過程におけるリソース使用の実態調査 ―韓国人・台湾人学部留学生を対象に―
3．学会等名 2017 年度日本語教育学会春季大会
4．発表年 2017年

１．発表者名 副田恵理子
２．発表標題 上級日本語学習者のレポート作成過程におけるリソース使用
３．学会等名 マルチモーダルなコミュニケーション研究に基づいた日本語教育研究会
４．発表年 2016年

〔図書〕　計0件

〔産業財産権〕

〔その他〕

－

６．研究組織

	氏名 （ローマ字氏名） （研究者番号）	所属研究機関・部局・職 （機関番号）	備考
研究分担者	小林　ミナ (KOBAYASHI Mina) (70252286)	早稲田大学・国際学術院（日本語教育研究科）・教授 (32689)	
研究分担者	日野　純子 (HINO Junko) (30468839)	帝京大学・教育学部・教授 (32643)	
研究分担者	舩橋　瑞貴 (FUNAHASHI Mizuki) (20533475)	群馬大学・国際教育・研究センター・講師 (12301)	
研究協力者	大和　えり子 (YAMATO Eriko)	ロイヤルメルボルン工科大学ベトナム校・School of Communication & Design・Senior Lecturer	